

平成 22 年度 1 級建築士設計製図試験の講評

「小都市に建つ美術館」

コスモ建築塾で予想した主な内容と結果

試験課題の主な内容と問題点	講習会で指摘した事項と試験の内容
試験課題のコンセプトについて	現代の美術館の許可は、その計画の採算が重視され、多くの利用者に愛されないと、来館者も少なく、維持が難しくなるので、官庁側の許可も難しくなっていると指摘。 コスモでは美術館と町おこしのコラボレーションと予想した。
空間構成について	ズバリの中 美術館の空間構成は、展示室（閉じた空間）とホワイエ（開いた空間）のコラボレーションであり、ホワイエ等は、ロケーションのよい外部を考慮するとした。
歩車分離と遊歩道	ズバリの中 エスキス課題(1)と模擬Ⅱで演習した。公営の駐車場から歩行者専用道路を通過して、専用の入口へ導き、歩車分離とした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ エントランスホールの吹抜とトップライト ・ 地上 2 階、地下なし ・ 屋外広場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吹抜とトップライト（課題(6)、(7)、(12)、模擬(Ⅰ)、(Ⅱ)、エスキス(Ⅱ)) ・ 地上 2 階、地下なし（課題(2)、(9)、(10)) ・ 屋外広場（課題(2)、(3)、(5)、(12)、模擬(2)、エスキス(1)、(2)、(3))
鉄骨鉄筋コンクリート造について	階高が高く、長スパン（≒14m）の空間構成となるので、SRCが最も適している。SRCは不経済とみる向きもあるが、RCと比較すると、構造体で 10%、全体で 5%程度のコストアップにしかならない。SRCは建物の靱性も高まり、梁貫通も梁成の 30%程度可能となり、D.Sを通すことにより階高を約 1 割程度縮小させることが可能となる。メリットとデメリットを相殺すれば、むしろSRCの方が経済的ともいえる。 以上の考えで、試験問題の設計条件でSRCが使用可能なら、プラン全体でSRCを使うべしと主張した。

今回の課題の納まりは前回の試験課題（94 年度課題：地方都市に建つ美術館）の踏襲だった。2 階に展示室を設け、1 階の階高を抑える形はまったく同じである。課題(2)で演習した。全体の傾向として、地域住民のための施設としてよく考えられている。黒川紀章がバブル時代に設計した美術館を見学したが、まったく死んでいた。美術館といえども、利用者がいなければ、私の仕事館と同じ運命となる。人々に使用されて、始めて生きることが可能となる。時代を反映した課題である。地域住民が愛し利用しなければ不良資産となる。維持するのも不可能である。この点に限っては、納得のいく試験課題だった。